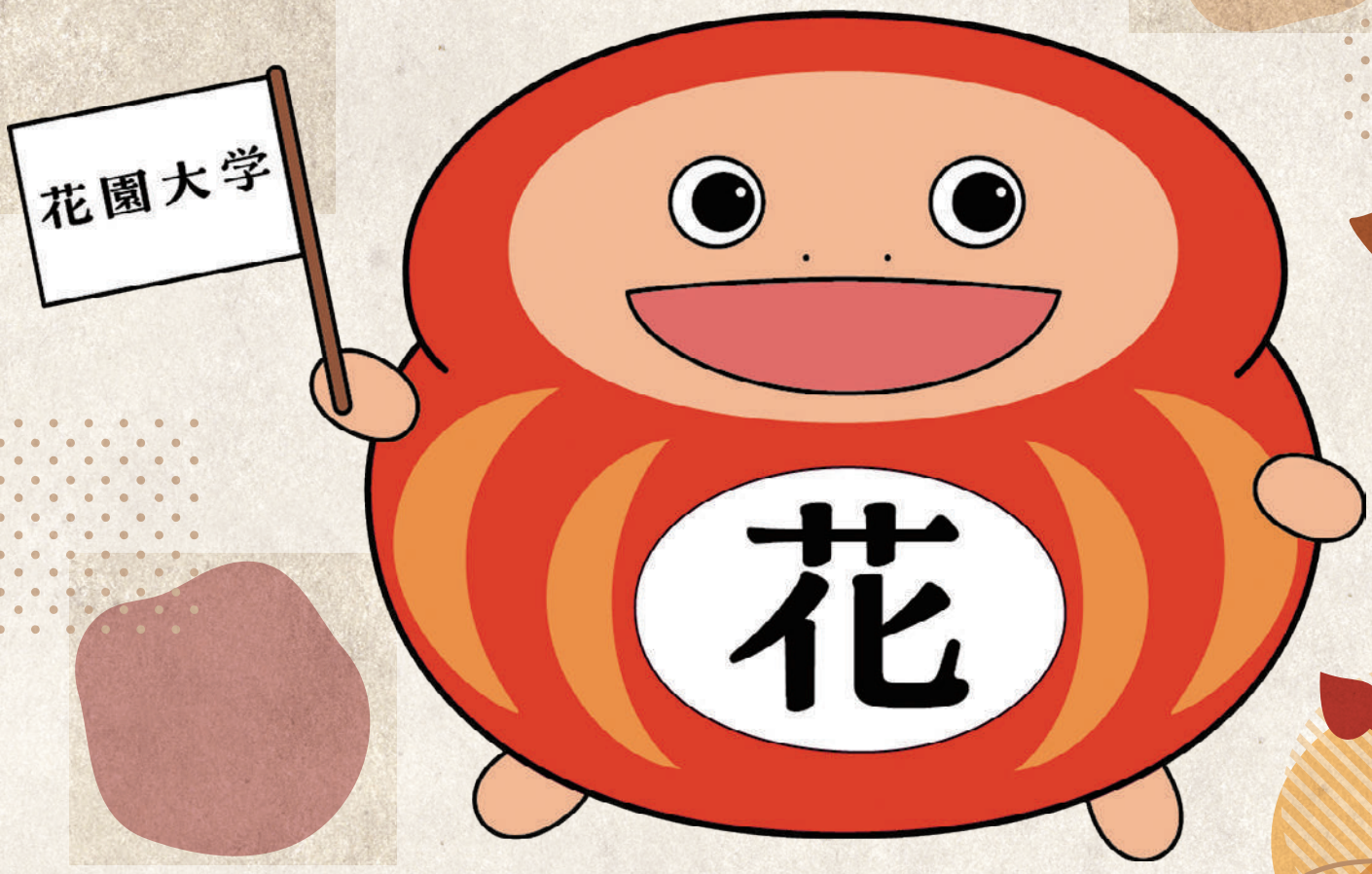
HANAZONO Univ.
花園大学

同窓会通信

2026
September
Vol.113



花園大学公式マスコットキャラクター『花まるだ』

CONTENTS

同窓会理事会報告 ……2
学長挨拶 ……4
大学ニュース ……5
同窓会ニュース ……9
卒業生に活躍 ……10
「お元気ですか」 ……11
書籍案内 ……11

花園大学同窓会　理事会報告

2026年5月25日（月）、花園大学同窓会理事会を開催し、2025年度の事業・決算報告と2026年度の事業計画・予算が決定されました。

2025年度 花園大学同窓会事業報告

1. 同窓会関係会議

□会計監査　4月17日　花園大学　栽松館2Ｆ応接室
　　4月30日　花園大学　栽松館2Ｆ応接室
□三役会　5月14日　花園大学　教堂2Ｆ会議室
□理事会　5月25日　花園大学　栽松館3Ｆ大会議室

2. 支部総会参加

□大分県支部　5月22日　別府市　「ホテルニューツルタ」
□福岡県支部　6月 9日　福岡市　「じぶんどき」
□兵庫東支部　7月11日　神戸市　「神戸飯店」
□三重県支部　11月 7日　津市　「ホテルグリーンパーク津」
□佐賀県支部　11月28日　武雄市　「湯元荘東洋館」
□兵庫西支部　1月20日　姫路市　「ホテル日航姫路」

3. 在学生対象イベント・支援活動

□学生食堂支援
　○「同窓会うどん・そば」
　　代金170円の内、120円を補助
　　年間利用数　16,444食（参考：2024年度10,758食）
□新入会員歓迎
　○卒業記念品
　　「ロゴ入りケータイマグ」・菓子を卒業生249名に贈呈
　　※前期卒業生16名含む
□新入生歓迎事業支援
　○新入生のオリエンテーション費用の補助

4. 同窓会通信の発行

□花園大学同窓会通信　第111号（9月発行）
□花園大学同窓会通信　第112号（3月発行）

5. 支部活動助成

□申請のあった6支部へ交付
　三重、兵庫東、兵庫西、福岡、佐賀、大分

6. 同窓生への慶弔電報

□6件

2025年度花園大学同窓会決算

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

（1）一般会計

収入の部

（単位　円／▲＝減）

項	科　目	本年度予算額	本年度決算額	差　異
1	入会金	2,500,000	760,000	1,740,000
2	同窓会費	5,000,000	1,520,000	3,480,000
3	寄付金	0	24,000	▲ 24,000
4	雑収入	22,544	197,244	▲ 174,700
	収入の部　合　計	7,522,544	2,501,244	5,021,300

支出の部

1	事務費	100,000	100,000	0
2	同窓会通信　制作費等	200,000	158,400	41,600
3	同窓会通信　発送費	10,000	5,850	4,150
4	通信費	130,000	74,010	55,990
5	新入会員歓迎費	1,500,000	355,557	1,144,443
6	会議費	10,000	943	9,057
7	旅費・交通費	700,000	571,830	128,170
8	消耗品費	10,000	53,900	▲ 43,900
9	慶弔費	100,000	21,482	78,518
10	支部活動補助費	1,000,000	706,108	293,892
11	在学生支援費	1,300,000	1,633,630	▲ 333,630
12	新入生歓迎事業支援費	1,200,000	1,200,000	0
13	システム利用料	450,000	452,139	▲ 2,139
14	雑費	100,000	62,260	37,740
15	予備費	100,000		100,000
	前年度未払金支払	0	0	0
	支出の部　合　計	6,910,000	5,396,109	1,513,891

（2）学生急減対策積立資金

収入の部

1	学生急減対策積立繰入	0	0	0
2	前年度繰越金	37,276,495	37,276,495	0
	収入の部　合　計	37,276,495	37,276,495	0

支出の部

1	学生急減対策支援費	0	0	0
2	次年度繰越金	37,276,495	37,276,495	0
	支出の部　合　計	37,276,495	37,276,495	0

新理事紹介

2026年5月25日（月）花園大学同窓会理事会を開催いたしました。理事総数47名中、27名出席、欠席20名（うち委任状19名）で、過半数に達しており、同窓会会則第13条により、理事会は成立いたしました。

支部長交代により、新たに理事にご就任されたみなさまは以下の通りです。

京都（中丹）支部：正木　義昭 様
熊 本 県 支 部：森　　義久 様

2026年度 花園大学同窓会事業計画

1. 同窓会関係会議

□会計監査　4月14日　　花園大学　栽松館2Ｆ応接室
　　4月22日　　花園大学　栽松館2Ｆ応接室
□三役会　　5月18日　　花園大学　教堂2Ｆ会議室
□理事会　　5月25日　　花園大学　栽松館3Ｆ大会議室

2. 支部総会

□大分県支部　5月28日　別府市　「ホテルニューツルタ」
□佐賀県支部　6月 2日　嬉野市　「旅館大村屋」
□福岡県支部　6月 9日　福岡市　「海山邸」
□三重県支部　11月上旬頃

3. 在学生対象イベント・支援活動

□学生食堂支援
　○「同窓会うどん・そば」代金200円の内、150円を補助
□新入会員歓迎
　○卒業記念品「刺繍入りハンカチ」を卒業生に贈呈

4. 同窓会通信の発行

□花園大学同窓会通信　第113号（9月発行予定）
□花園大学同窓会通信　第114号（3月発行予定）

5. 支部活動助成

6. 同窓生への慶弔電報

7. 同窓会費徴収システム

オンライン決済サービス「e-apply」システム利用料

8. 硬式野球部応援援助費

令和8（2026）年度京滋大学野球春季リーグ戦において、本学の硬式野球部が6季（3年）ぶり3度目のリーグ優勝を果たしました。これにより、6月8日より開催される全日本大学野球選手権大会への出場権を獲得しました。この大会は高校野球で言えば甲子園に相当する全国大会であり、明治神宮野球場・東京ドームで開催されます。その大会に向け頑張っている選手たちを、同窓会からも応援したいと考えております。

9. その他

2026年度花園大学同窓会予算

（2026年4月1日から2027年3月31日まで）

（1）一般会計

収入の部　　（単位　円／▲＝減）

項	科　目	本年度予算額	前年度予算額	差　異
1	入会金	910,000	2,500,000	▲ 1,590,000
2	同窓会費	1,820,000	5,000,000	▲ 3,180,000
3	寄付金	0	0	0
4	雑収入	200,000	22,544	177,456
	収入の部　合　計	2,930,000	7,522,544	▲ 4,592,544

支出の部

1	事務費	100,000	100,000	0
2	同窓会通信 制作費等	200,000	200,000	0
3	同窓会通信 発送費	10,000	10,000	0
4	通信費	100,000	130,000	▲ 30,000
5	新入会員歓迎費	350,000	1,500,000	▲ 1,150,000
6	会議費	10,000	10,000	0
7	旅費・交通費	600,000	700,000	▲ 100,000
8	消耗品費	10,000	10,000	0
9	慶弔費	50,000	100,000	▲ 50,000
10	支部活動補助費	1,000,000	1,000,000	0
11	在学生支援費	1,500,000	1,300,000	200,000
12	新入生歓迎事業支援費	0	1,200,000	▲ 1,200,000
13	システム利用料	500,000	450,000	50,000
14	雑費	70,000	100,000	▲ 30,000
15	予備費	100,000	100,000	0
16	硬式野球部応援援助費	1,000,000	0	1,000,000
	前年度未払金	686,400	0	686,400
	支出の部　合　計	6,286,400	6,910,000	▲ 623,600

（2）学生急減対策積立資金

収入の部

1	学生急減対策積立繰入	0	0	0
2	前年度繰越金	37,276,495	37,276,495	0
	収入の部　合　計	37,276,495	37,276,495	0

支出の部

1	学生急減対策支援費	0	0	0
2	次年度繰越金	37,276,495	37,276,495	0
	支出の部　合　計	37,276,495	37,276,495	0

学長挨拶



学長　磯田　文雄

日頃、花園大学の教育研究の充実発展のためにご支援いただいておりますことを厚くお礼申し上げます。

令和8（2026）年度の入学者数は、入学定員405名に対し241名でした。その内訳は、仏教学科入学定員35名に対し22名、日本史学科65名に対し33名、日本文学科60名に対し35名、社会福祉学科80名に対し84名、臨床心理学科85名に対し53名、初等教育学科80名に対し14名でした。各学科ともに、来年度の入学者選抜に向けて教育研究内容の改革、広報戦略の充実等に取り組んでいます。特筆すべきは、臨黄合議所のご支援もあり、仏教学科は昨年度の16名から6名増となったことです。仏教学科は、さらなる入学者数の増に取り組んでいます。なお、新設学部の初等教育学科につきましては、年内入試の活動がほぼ終わりつつある10月末に政府からご認可をいただいたため、広報活動及び入学者選抜が11月以降になりました。年内入試で入学する受験生が53.6%（令和7（2025）年度）という今日の状況では、厳しい入学者選抜となりました。

新入生は多様です。ぎこちなさ、聡明さ、おっちょこちょい、決断力、手堅さ、慎重さ、おっとりした、深い理解、それぞれの学生がそれぞれ個性をもっていて頼もしい限りです。毎年毎年、学生は変わっていきますが、その変化について、京都市内の公立高等学校の先生が次のように語ってくれました。「花園大学は変わってきたように思う。」「学生が凛としている」。この言葉を励みに、より教育の充実に努めてまいります。

わたしが花園大学へ来た2021年度から教員は大幅に入れ替わりました。約60名程度の専任教員に対し、過去5年間の教員の退職者数は51人で、新任教員数は43人です。若手教員は、いずれもつわものぞろいです。木村拓哉主演の「教場」というテレビドラマがありましたが、そっくりな若手教員がいます。違いは、木村拓哉主演の警察学校教官風間公親が、警察官として適性のない者に容赦なく退校届を突きつけるのに対し、本学の若手教員は学生を支え続けるということです。花園大学は、このような若手教員の存在により、学生が成長し続けることに自信を持っています。

本学から東京大学や早稲田大学に異動した教員も少なくありません。これらの異動をなぜ止めなかったのかとの声も聞かれます。しかしながら、本学は小さな大学であり、若手教員の成長のための十分な環境が整っているわけではありません。全世界の電子図書を利用する環境、すなわち、ジャーナルのアクセスも極めて限定的ですし、図書及び研究者のネットワークにおいても限りがあります。理系の実験室ももちろんありません。研究力のある大学であれば、大きく成長させることのできる若手を私たちは十分成長させることができるのか、それには限界があります。だから、私は若手教員にはお願いしています。花園大学にいる間は、是非、花園大学の学生を大切にしてほしい。学生を支えてほしい。

大学ニュース

花園大学で行った行事やイベントなどを
中心とした新しい情報を紹介します。

2025年度 学位授与式

2026年3月17日、2025年度学位記授与式を執り行い、226名の学部生、7名の大学院生が卒業・修了を迎えました。

磯田学長は式辞の中で「私は人を信じます。特に若者の力を信じています。皆さん、苦難を恐れず、際限のない社会の「大海」へ漕ぎ出していってください。」と、卒業生・修了生へ向けての言葉を贈られました。

また、特別表彰として、学業、体育活動、芸術・文化活動などについて優秀な成績を修めた方10名に学長表彰が、社会活動、課外活動などにおいて功績・貢献があった方11名に総長表彰が贈られました。

最後に、卒業生・修了生を代表して社会福祉学部臨床心理学科　森田信一さんが、定年退職を機に社会福祉学部に入学したこと、資格取得に向けて多くの学びを得たこと、他学科科目も積極的に履修したこと、人権教育研究センターのフィールドワークに参加したことなど、実りある４年間だったことをお話しされ、「こうして卒業の日を迎えることが出来ましたのは、本日まで親身にご指導いただきました諸先生方、職員の皆様、そして保護者並びに家族の方々の支えのお陰です。重ねて、心より感謝申し上げます。春からは、それぞれが決めた道に進んでまいります。花園大学での経験と学びを胸に、励み、壁を乗り越え歩んでいきます。」と謝辞を述べられました。



卒業生、修了生の皆さんの今後の益々のご活躍を祈念しております。

2026年度 入学式

2026年4月1日、2026年度入学式を挙行し、学部生243名、大学院生8名、計251名の学生が入学しました。今年開設した教育学部初等教育学科には第1期生として14名の学生が入学しました。

磯田学長が教職員を代表してお祝いの言葉を述べるとともに、今年３月に本学を卒業し、東北楽天ゴールデンイーグルスにドラフト会議で1位指名された藤原聡大さんについてお話され「本学をこの春卒業した藤原聡大さんが、去る3月29日の楽天・オリックス戦に、楽天先発投手としてプロ初登板しました。4年前に藤原聡大さんが入学してきたときには、29日の舞台はまったく想像されていませんでした。大学とは、青年が生まれ変わる場所です。藤原聡大さんはその一つの事例です。本年入学された皆さんがどのように生まれ変わるのか、私たち大学教職員一同、心より応援していくことをお誓います」とお祝いの言葉を述べられました。



その後、新入生を代表して教育学部初等教育学科の大居晴さんが、「それぞれの夢を実現できるよう、この学び舎で勉学と学生生活に精一杯励むことを誓います。」と宣誓しました。

雨の降る生憎の天候ではありましたが、保護者・ご家族の方にも多く参列いただき、大学生として新たな一歩を踏み出す新入生の門出を祝うにふさわしい希望に満ちた入学式となりました。

本山早朝参拝・花まつり

5月25日の創立記念日に本山早朝参拝、翌日26日には花まつりを開催しました。栗原学園長導師のもと諷経参拝し、学生・教職員約40名が玉鳳院にて開基花園法皇様、開山堂にて開山無相大師様に手を合わせました。また、本学硬式野球部が京滋大学野球2026年度春季リーグ戦にて6季ぶり3回目の優勝を果たし、第75回全日本大学野球選手権記念大会へ出場するため栗原学園長導師に必勝祈願のお守りを空じていただきました。

花まつり（釈尊降誕会）は無聖館前で開催しました。本学の建学の精神である禅的仏教精神の具現化の一環として毎年開催している大学行事です。導師は横田南嶺総長に務めていただきました。洛西花園幼稚園の園児による献灯献花が行われ、その後般若心経を唱え、お釈迦様の御誕生と勉学向上祈願の回向を進呈しました。横田南嶺総長の法話を拝聴した後、園児約60名によるお歌の披露がありました。曲目は「こどもの花まつり」「線路は続くよどこまでも」「世界中のこどもたちが」の3曲で、元気いっぱいの歌声がキャンパス内に響きました。最後に参列者が焼香をし、花御堂の釈迦誕生仏に甘茶をかけ、式典が無事円成しました。園児の保護者の皆様にもご参列いただき、約200名の皆様にご参加いただく盛会となりました。





山川宗玄妙心寺派管長×横田南嶺総長　特別対談

2026年5月25日（月）、臨済宗妙心寺派管長の山川宗玄老大師と横田南嶺総長による特別対談が行われました。

本学の関係者並びに一般の方を含む約300人の参加者を前に、「現代に生きる禅のこころ」をテーマにお話しいただきました。

動画は以下のQRコードから
ご視聴いただけます。



（左）横田南嶺総長　　（右）山川宗玄老大師

進路サポート課

学生本人が納得できる進路に向けて、大切な第一歩をしっかりサポートしています。



新卒就職活動状況は、拍車のかかる人手不足状態から、「売り手市場」による学生の複数内定保持、「早期選考型インターンシップ」からの3回生時早期内定も一般的という状況です。一方で、採用選考は何度も機会が設けられ長期にわたることもあったり、オンラインと対面を両立させたり、選考方法も企業が独自に工夫をするなど、今や「早期化」「長期化」「多様化」しているのが現状です。

進路サポート課は、進路サポートシステム「花☆サポ」（※）を活用し、目まぐるしく変化する情勢をキャッチ、本学の学生に合わせたオリジナルな就職ガイダンスやサポートガイダンスを企画、実施しています。

4回生には、6月から進路状況調査を行い、その結果を元に個々にコンタクトをとり、個別相談や本学学生への採用意欲の高い多くの企業・団体の求人紹介、さらに履歴書添削や面接指導など多岐にわたる個別サポートにつなげています。

3回生には、「就職ガイダンス」を年5回実施しています。全員が出席できるようお昼休みを使って同じ内容のガイダンスを2回開催。就活準備について具体的にイメージできるように、ライブ感覚でわかりやすく説明する工夫をしています。

2回生には、今年度初めての試みとして全員に個別面談を実施しました。早い段階から進路サポート課との接点を持ってもらうことを目的とし、一人ひとりが現在どのような進路を考えているのかを聞き取ることで、それぞれの状況や希望に応じた個別サポートにつなげる取り組みです。さらに、必修基礎教育科目「学びのナビゲーション：進路を考える」と連携、15回中4回分を進路サポート課が担当し、ますます早期化する就職活動に備えるガイダンスを実施しています。

1回生には、早くから進路サポート課に親しんでもらい、進路を考える第一歩を踏み出すきっかけ作りとなるような「進路サポートガイダンス」を全員参加必須として開催予定です。

また、保護者様対象就職ガイダンスを本学にて7月に開催。就職活動の現状や課題、保護者の就活サポート方法などをお伝えしました。当日はオンライン参加も含め、100名を超える参加者がありました。

進路サポート課が大切にしているのは、学生一人ひとりとの対話によるサポートです。

まずはどんな相談でも気軽に進路サポート課を立ち寄ることができるように、ひとりでも多くの学生と関わるきっかけ作りに日々工夫を重ねています。

進路・就職状況詳細については、大学ホームページにアップしております。

※進路サポートシステム「花☆サポ」とは…

スマートフォンやパソコンから、求人検索、個別相談・支援講座参加予約、履歴書・履歴書記入例、就活マナーシートがダウンロードできる他、就活準備動画の視聴、スケジュール管理など、就職活動必須のサポートシステムです。

地域連携教育センター

京都市ふるさと納税を活用し、花園大学へご支援をお願いします。

2023年4月より、京都市へふるさと納税をしていただくと、翌年度に寄付金額の一部が花園大学へ配分されることになりました。配分された助成金は、本学の地域連携等推進事業に活用させていただきます。花園大学へのご支援をよろしくお願いいたします。

詳しくは、京都市ふるさと納税特設サイト
（https://furusato-kyoto.jp/usage/）をご覧ください。

京都市「ふるさと納税」受付サイトにアクセス

↓

使い道や寄付金の用途で
「京都の大学・学生の活動を応援」
「花園大学」
を指定してください

↓

返礼品・寄付金受領証明書が到着

↓

寄付金控除の手続き

↓

税金の控除

※京都市民の方は返礼品の送付はありません。

硬式野球部全国大会報告

第75回 全日本大学野球選手権記念大会　応援御礼

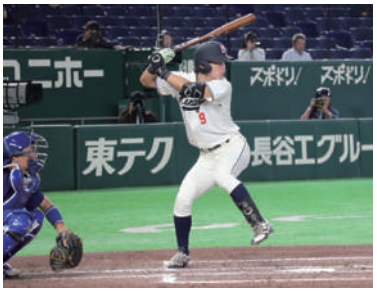
花園大学硬式野球部は、2026年度京滋大学野球春季リーグ戦にて優勝（6季ぶり3回目）し、第75回全日本大学野球選手権記念大会に出場しました。

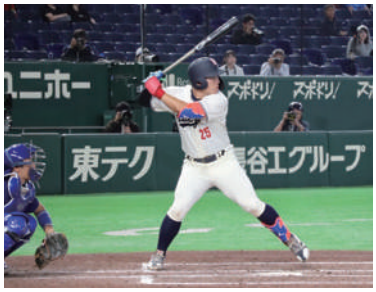
１回戦は6月8日、東京ドームにて北九州市立大学と対戦し、初回先制するも3回に逆転され、終盤の攻撃は8回の1点止まりで惜敗。全国大会初勝利は持ちこしとなりました。

東京ドームにきてくださった皆様、大学のパブリックビューイングやご自宅で応援してくださった皆様、大声援ありがとうございました。

またご寄付いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
北九州大	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
花園大	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2

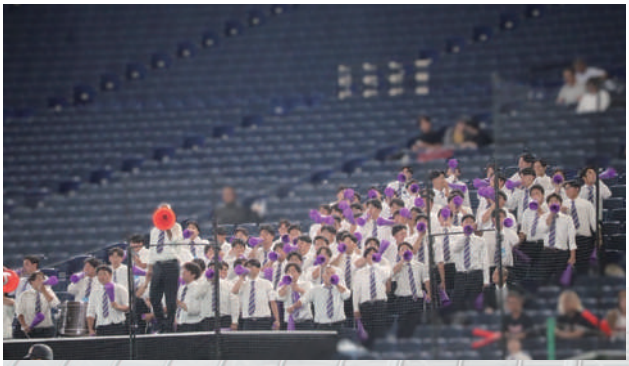












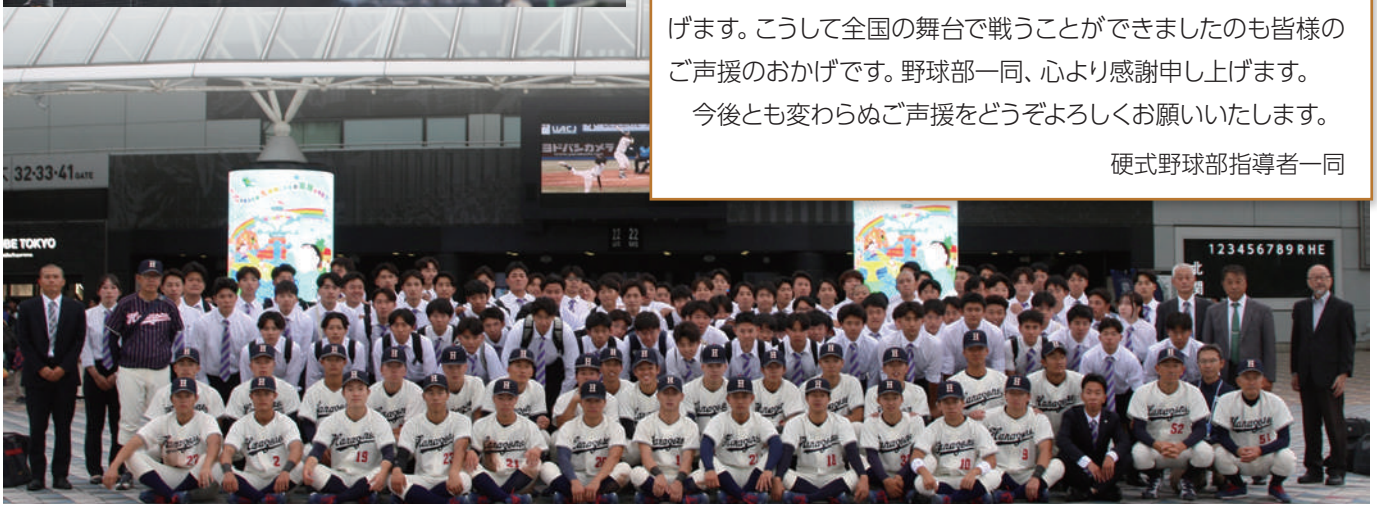
平素は花園大学硬式野球部活動に対しましてご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。

３度目の全日本大学野球選手権出場となった今大会は、ベスト８を目標として挑んだだけに非常に悔しい敗戦となりました。今大会ではチームの目標を達成することはできませんでしたが、目標を変えることなくこれからも挑戦し続けていきます。

多くの激励をいただき、本当にありがとうございました。また遠方からも心温まる励ましの言葉をいただき、心より御礼申し上げます。こうして全国の舞台で戦うことができましたのも皆様のご声援のおかげです。野球部一同、心より感謝申し上げます。

今後とも変わらぬご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

硬式野球部指導者一同



同窓会ニュース

大分県支部総会



令和8年5月28日、別府市ホテルニューツルタにおいて花園大学同窓会大分支部総会を執り行いました。会員13名、同窓会本部から花園大学総務部総務課坂ノ下　祐大氏をお招きし、令和７年度収支報告及び決算報告、令和8年度事業計画及び予算報告を行い、坂ノ下氏より今年度の入学者数、野球部からプロ野球選手が誕生した事、新しい学部が出来た事など、大学の現状をお話ししていただきました。また実働している同窓会支部が全体の半分であり、その半分が九州だと聞いて驚きました。

当支部も20年前に比べると年々同窓会員も高齢化が進んでおり、若手も少子化で会員数が半分に減っており、現会員は僧侶のみという現状に対して、いかにして一般の卒業生も参加してもらえるのか考えていきましょうとなりました。

夜は懇親会を行い、より詳しく花園大学の現状並びに今後の大学の展望を教えて頂き、親交を深め合いました。

花園大学同窓会大分支部 副会長 大福寺　東　大道

佐賀県支部総会

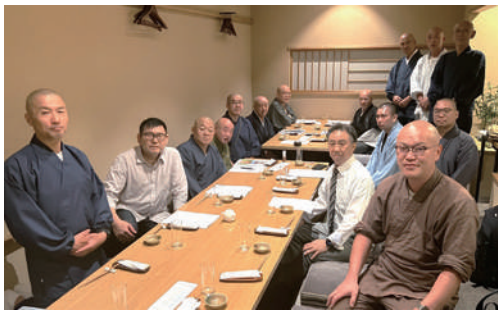


令和8（2026）年6月2日（火）嬉野市「大村屋」 にて令和８年度の佐賀支部総会を開催致しました。会員17名の参加と花園大学より鷲阪宗寛氏（花園大学総務部長）、坂ノ下祐大氏（花園大学同窓会事務局）のご臨席を賜りました。中園博道氏（支部長）より全国支部長会の報告もあり、会中は会員より忌憚のない意見、質問等があり有意義な総会になりました。また、大学より近況報告をご丁寧に説明していただきました。その中でも野球部の活躍、花園大学の同窓生として大変嬉しく思いました。ご報告を聞き今後の野球部のみならず大学、学生への支援のありかたについても話し合うことができました。

これからも佐賀支部の皆様に、たくさん参加していただけるように同窓会を盛り上げていきたいと思います。来年の再会を祈念して閉会いたしました。

事務局長　本山　淳一

福岡県支部総会



令和8年6月9日（火）福岡市博多駅前「海山邸」にて令和7年度の支部総会を開催しました。会員15名の参加者と大学より進路部長　山本清文様、同窓会事務局坂ノ下祐大様のご臨席を賜りました。桑野勝巳副会長の司会により池上寛道支部長の挨拶に続き、貝野孔隆氏を議長に選出し議事が滞りなく終了しました。総会後、大学より近況報告がありました。親睦会は、今長谷（いまはせ）清明副会長の進行により聖福寺細川白峰老大師のご挨拶を頂き、梅林寺東海大玄老大師の乾杯のご発声で親睦会が始まり、大学時代の様子がよみがえり、懐かしい時を和やかな雰囲気の中で過ごすことができました。北九州からの参加の男性同窓生は、「毎年いろいろな話ができ楽しかった」と感想をいただきました。また、花園大学野球部の全国大会出場の支援金を福岡県支部よりすることになり同窓会事務局に託（たく）しました。楽しい雰囲気の中、来年の再会を祈念し、閉会しました。福岡県内には168名の同窓生があり、各方面にて活躍されています。今年の総会の出欠の返信をFAX・メールで行いました。

これからもたくさんの方が参加していただけるように同窓会を盛り上げていきたいと思います。

事務局　山﨑公明

兵庫東支部総会



2026年7月4日（土）アメリカ建国250年の独立記念日に、神戸市長田区内神戸飯店に於いて、定例支部総会を開催致しました。

大学から社会福祉学部長の梅木真寿郎氏、同窓会事務局の坂ノ下祐大氏が来神され、会員10名と共に、全員総会引続き懇親会へと同席され、持参された資料配布の上、大学の近況報告を受けました。

又、会員の方から、本学野球部が京滋リーグで全勝優勝をして、全日本大学選手権の試合が東京ドームで行なわれ、会社を休んでまで応援に行って来られた経緯報告を頂き、昨年プロ野球ドラフト1位指名の選手があり、年々実力も名声も高まりつつある話をして頂きました。

同じく会員で神戸市議会議員を勤められている方から、神戸市政の話もして頂きました。

宴たけなわ、全員で大学歌を4番まで斉唱して、今年の総会を締め括ることが出来ました。

支部長　原田太胤

卒業生の活躍

本学卒業生が日本コロムビアからメジャーデビュー

シンガーソングライター ちひろさん

本名：藤井 千尋　1994年度文学部社会福祉学科 卒業

童謡詩人・金子みすゞの詩に自ら作曲し歌い語る活動20周年を迎えた昨年、念願だったメジャーデビューが叶いました。これまで、全国各地で1,300回を超える公演を重ねてきた、その一つひとつのご縁から結びついたものです。その中には花園大学での公開講座としての公演や、臨済寺など妙心寺派のお寺でのコンサートもあり、母校から繋がるエールはとても心強く、信念を貫く大きなパワーをいただきました。心から感謝申し上げます。

実は、昨年はメジャーデビューに向かって大きな節目の1年でした。2月に金子みすゞの故郷・山口県長門市の公認を受け、唯一の「金子みすゞアンバサダー」に就任。6月には大阪・関西万博に出演、9月に日本コロムビアからメジャーデビュー、BS日テレの全国放送歌番組にも出演しました。

現在、東京都内の小学校からの公演オファーも10校以上いただいています。大切にしてきた金子みすゞの心をしっかり伝えるスタイルを更に追求し、頑張っていこうと思います。



▲日本コロムビアから2025.9.24リリースCDアルバム
「Misuzu Songs ―金子みすゞのうたがきこえる―」



▲金子みすゞアンバサダー就任記者会見写真
（向かって右：長門市長　左：金子みすゞ記念館館長・矢崎節夫氏）

日本コロムビア
オフィシャルサイトのちひろページ▶

書籍案内

いいケアのできる人が 最高のリーダーになる方法　柴垣 竹生

利用者思いの「いい介護ができる」あなたは、介護事業所の管理職に抜擢されました――がんばりたいけど、何から手を付ければいいの？どうすればいいの？そもそもマネジメントってなに？そう思っているうちに、あなたの事業所では、人が辞めて、売上が下がり、事故が起こる…　あなたは一日でも早くマネジメントのプロフェッショナルにならなくてはなりません。

本書は、そんなあなたのために、介護の現場を知り尽くした経験豊富な人材育成のプロが書いた「攻めのマネジメント術」です。本書を読めば、明日からの介護の現場運営が変わります。



筆者プロフィール：柴垣 竹生（しばがき たけお）

- 株式会社エクセレントケアシステム執行役員 人材開発部部長
- 兵庫県立大学大学院経営研究科（MBA）講師
- 公益財団法人介護労働安定センター雇用管理コンサルタント・人材育成コンサルタント
- 大阪市モデル事業「介護の職場担い手創出事業」アドバイザー
- 日本介護経営学会会員

1966年大阪府生まれ、1989年3月文学部国文学科卒、1990年3月文学専攻科国文学専攻修了、大手生命保険会社勤務後、1999年介護業界に転じ、以降数々のマネジメント職を歴任、2019年より現職。
教育部門の責任者として本業に携わる傍ら、MBAで講義を受け持つ。公益財団法人介護労働安定センター等で介護経営および人材育成に関する講演を多数行う。
近著には老優48名の俳優論を通じて高齢者の新たな生き方を探った『老いに優れる　老優に学ぶ人生100年時代のロールモデル』、介護事業マネジメントに関する著書『介護現場をイキイキさせるマネジメント術』がある。

お元気ですか

酒井　良男 様（昭和50年度文学部社会福祉学科卒業）

私にとりまして、京都は第2の故郷でありまして花園大学はその拠り所であります。

卒業してはや40年余の月日が流れました。2回ほど同窓会通信に載せていただきました。お世話になった先生方、そして、同窓生のことを思い出されてなりません。ここにきていまだ同窓生（仏教学科）の方々のことが思い出されてなりません。卒業後一度も逢っていない方もおられますので、この機会に御一報願いたく思います。

旧校舎での想い出は多々あれど、新校舎には桐田先生に案内してもらい、その後数回は見学に行きました。益々のご発展を願います。

大場　博文 様（昭和58年度文学部仏教学科卒業）

同窓会通信には、約10年前に続き3回目のお便りになります。私事ですが、私は昭和58年度（昭和59年３月）に仏教学科を卒業しました。現在65歳になりますが、浜松啓陽高等学校で定年退職後も再任用教諭として、教員生活41年目を迎えることができました。

昨年の夏、教育学部ができるとお聞きし、オープンキャンパスに参加させていただきました。同じく参加していた高校3年生数人に、是非とも教員を志望していただき、昨今の教員不足の解消に役立ってもらいたいと思い、声を掛けさせていただきました。今、こうして長い教員生活を振り返って思うことは、花園大学で、素晴らしい教授陣、良き先輩、友人、後輩に出会えたことが、その後の教員人生に大きく影響しています。教員生活の中で、花園大学出身で良かったと思えることばかりですので、是非とも4年後の教育学部卒業生の先生には、自信をもって羽ばたいていただきたいと思い、お便りさせていただきました。



ホームページ、フェイスブック、エックス、インスタグラムでも大学の情報を発信しております。



花園大学同窓会
ホームページ



花園大学
公式ホームページ







花園大学　同窓会通信113号　2026.9発行
〒604-8456　京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1
同窓会事務局
電　話（075）279-3630（直）
ＦＡＸ（075）823-2412（直）
E-mail：dousou-h@hanazono.ac.jp